



平安時代中期に編さんされた『延喜式』にもその名が残る古社・高岳神社。北側には蛤岩と呼ばれるご神体の大岩があります。江戸時代には山陽道の宿場町として栄え、桔梗屋をはじめ9軒の宿屋がありました。夢前川の渡し場だった場所に常夜灯が残っています。



▲蛤岩 ▲高岳神社

浜街道を行く旅人もいました



### 小赤壁

荒波に浸食された高さ40m、長さ約800mの断崖。頼山陽がこの地を訪れ、月夜に船を浮かべて風光を楽しんだ際、中国揚子江にある赤壁にちなんで命名したと伝えられています。



### 松原八幡神社

羽柴(豊臣)秀吉が松原八幡神社を芝原(現・豊沢町)に移すよう命じたとき、黒田官兵衛は松原が由緒ある地であると諭し、神社はこの地にとどまることができました。



### 国府山城跡

別名、妻鹿城、功山城。天正8年(1580)、毛利攻めの拠点として姫路城を羽柴(豊臣)秀吉に差し出した黒田官兵衛は、父・職隆が隠居していた国府山城に移り住みました。



坂本村より五十丁行、姫路城下に至る。姫路福井町井筒屋太兵衛二泊。



### 旅人② 伊能忠敬

(1745-1818) 地理学者・測量家

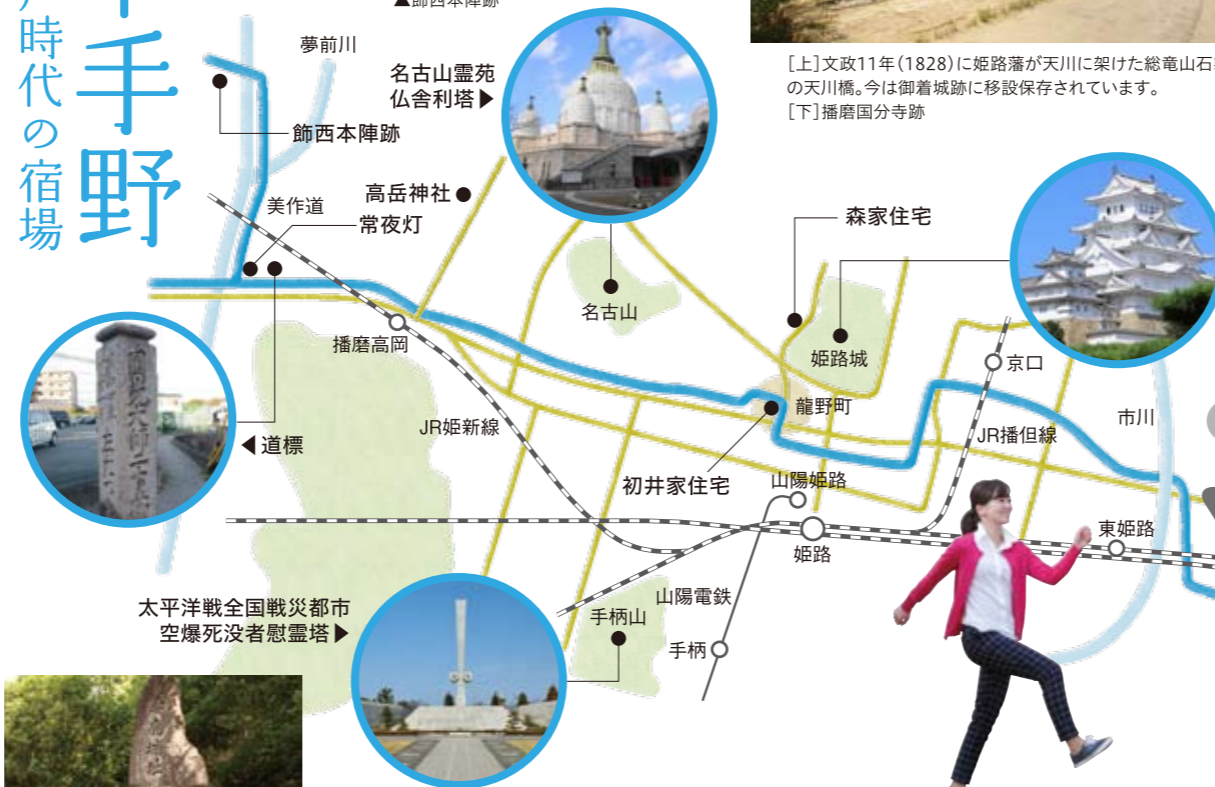
寛政5年(1793)に近所の知り合いと関西方面へ遊覧の旅に出かけ「関西旅行記」を綴りました。姫路城下では福井町の井筒屋に泊まったと記されています。その後、日本全土に及んだ測量の旅でも播磨を訪れ、美作道の飾西宿に宿泊しています。



▲飾西本陣跡

## 下手野

江戸時代の宿場



[上]文政11年(1828)に姫路藩が天川に架けた総竜山石製の天川橋。今は御着城跡に移設保存されています。



[下]播磨国分寺跡

## 山陽道



▲御着城跡

御着の歴史は古く、奈良時代に聖武天皇の詔により作られた官寺・播磨国分寺跡が残ります。戦国時代、赤松氏の一族である小寺政隆が築城したと伝えられる御着城は、黒田官兵衛が家督を継ぐまで近習として仕えた場所。天正7年(1579)、羽柴(豊臣)秀吉に攻められて落城しました。

## 御着

官兵衛 ゆかりの地



### 旅人① 頼山陽

(1780-1832) 儒学者・史家・漢詩人

河合寸翁と親交があり、姫路をたびたび訪れた頼山陽。文政10年(1827)、京都へ向かう途上、六騎塚を訪れこの地で自害した備後守 児島範長を称える詩を作りました。

児嶋範長義に死するの処なり



▲六騎塚

# 街道を行く。

旅人気分で

山陽道(西国街道)は別所、御着を過ぎて城下へ。今も街道の面影を残す龍野町、下手野、青山を通り太子町、たつの市へと向かいます。



初井家住宅 (非公開)

龍野町は、羽柴(豊臣)秀吉が制札を出して、楽市を許した町。その後も商人の町として栄えた街道筋でした。弘化元年(1844)に建てられ、「英賀屋」の屋号を持つ建物は、姫路を代表する文化人、初井しづ枝さんの家。その姿は西国街道の風情を今に伝えています。

## 龍野町

秀吉が開いた商人の町



西国街道



▲森家住宅(非公開)